

社会的養護経験者、里親、シングル子育て家庭、地域の居場所づくりの実践者、生活リスクを抱える家族に寄り添ってきた支援者、家族問題の研究者、学生、市民などさまざまな年代のさまざまな立場の方々から、子ども、若者、女性、家族をめぐる状況が報告され、当事者の方々の生活実態が明らかとなった。当事者の「声なき声」に思いを馳せ、理解するために想像を重ねていくことの大切さを再認識する機会となり、必要とされる支援のあり方について考える研修会となった。



8. 今後の展望

男女共同参画社会の本質や今後のあり方について、従来にはない発想と問題意識のもと、参加者一人ひとりが、本研修で学んだことをそれぞれの仕事や生活のなかで具現化していくことができる機会となり、多数の学生の参加者は進路を考える際の参考になった。孤立や困窮という社会課題に対する関心の高まり、対処するためのスキルや知識の向上に向けた取組みが期待で

きる。

9. 協働団体

独立型社会福祉士事務所 子どもと家族の相談室
寺子屋お〜ぷん・どあ
ふじ虹の会
静岡大学人文社会科学部社会学科 白井研究室
ママの部活動

10. その他(アンケート結果)

【第1部】

- ・孤立した母親へのケア・周りの配慮はあってしかるべきだと思いますが、その孤立の苦しみが子供に向けられるべきではないと思いました。(大学生20代)
- ・Aさんの話はとても衝撃的なことが多かったです。自分だったらと思うと途中で死んでいるような経験だったので、考えさせられる内容でした。(大学生20代)
- ・Aさんのお話し、聞かせていただきありがとうございました。涙が出ました。心が痛みました。たくさんの苦しみ悲しみを抱えた子供が、年を重ねておとなにならざるを得ない現実を垣間見た瞬間でした。どうか世界中の子供が、たとえどんなところに生まれても、きょうを幸せと思える日々が送れる世界になってほしい。そういう世の中をつくるお手伝いがしたい。そう思いました。私になにができるのだろう……。 (40代)
- ・高校時代のお話しを聞いて、悩みを共有できる場の大切さを感じました。サポートしてくれる大人がいる場所も必要ですが、自分と似たような境遇であったりする人が集まる場所は、それ以上に必要なのかもしれないと思いました。(大学生20代)
- ・こどもが受ける傷の深さの一端に触れることができた。

——シニア世代の1人が何をできるか思いを巡らした。(NPO 法人メンバー 60代)

・Aさんのお話を伺うことができてよかった。厳しい環境の中で生き延びてくださったことに感謝したいと思いました。よくがんばって来られましたね。白井先生が聞き手で安心してお話されていたと感じました。ありがとうございます。

——Aさんがお母さんとの関係を断った自己決定を支持します。(NPO 法人メンバー 60代)

・助産師である自分がいつも願っていることは、すべての命に対し、無事に生まれ、幸せな人生を歩んで欲しいことです。そして、命をかけて子供を産んだすべてのおかあさんに、いつまでも心身健康でいて欲しいことです。生まれてきてくれてありがとうございます。生き抜いてくれてありがとうございます。Aさんへ(大学院教員 60代)

・なぜHELPできないのかと思ったら、そういうことがあったのか!!と納得しました。自分からHELPできない子供をどう救うのか考えましたが、やはり地域をつくり、地域の感受性を高めていくことだろうと思いました。

日頃子供に接することの多い立場として、留意していきたいと思います。(県スクールカウンセラー 60代)

・すごいつらい人生?(本人は思っているか知りませんが)を送ってこられたと思います。人生の夢があったが、中学生の頃その夢をあきらめたと聞きました。

Aさんもまた違う夢を持って、大きく羽ばたき、活躍し、活動していつてもらいたいと思います。ありがとうございます。(焼津市災害時ボランティアコーディネーター 60代)

・田中さんのお話しも聞いたら、と思い残念です。Aさんのお話はとても考えさせられる内容でした。(30代)

・Aさんの当事者としての生のお話がきけて知らないことをたくさん教えてもらってよかったです。(50代)

・申し訳ありません。お話を消化するのにもう少し時間がかかりそうです。(大学生 20代)

・また、新しい進展をみつけることができたように感じる。あのときの思いと今の思い、母への思い、たくさんのことを聞いて、自分の人生をみつめなおす機会になった人のお話しをするのはとても勇気がいるし、体力も必要だと思うので、ほんとうにありがたいことであるなあと思った。(大学生 20代)

・そういう現実があること、自分になにができるか考えるきっかけとなった。(学生 20代)

【第2部】

・母親自身と地域や環境の双方が互いに研鑽することで親にとっても子供にとっても生きやすくなるのではと感じました。(学生 20代)

・母の立場について考えることは難しかったのでとても参考になりました。(学生 20代)

・自分は生まれ変わるんだと思えるようになるのはとても難しいと思います。かわさきさんの場合は先生の言葉だったと聞いて、人との出会いがそのきっかけになれるんだなと思いました。(学生 20代)

・「ママっ家」の自然体の支援、いいなあと感じた。(NPO 法人メンバー 60代)

・地域にいろんな人がいていろんな活動をしている。そんなことを知ることで心強く感じます。(県スクールカウンセラー 60代)

・こういう言い方は失礼だと思いますが、恋多き方だな〜と?でも苦労して、自分のやりたい事がわかって、自分の夢をかなえている人、素敵の人だなあと思います。

「こどもっ家」の平井さんも、健康に気を付けてがんばってください。ありがとうございます。(焼津市災害時ボランティアコーディネーター 60代)

・県外から講演会に来たのですが、自分の県(神奈川)ではママや子どもたちを支援する団体があまり無い感じがしたので、とても新鮮な思い

がしました。(30代)

・生きていくことはいろいろまさに人生いろいろとお話を聞けて思いました。(50代)

・母としての見方、子どものときの見方、いろいろな視点でのお話を聞くことが出来た。親としての人生、自分自身の人生を考え直す機会になった。お母さん、お父さんに「大丈夫？」と声をかけられる人になりたいと思う。(大学生20代)

・はじめて活動のことを知った。自らの経験から、支援にいたるところまで、きけてよかった。(大学生20代)

【第3部】

・子供を取り巻く環境や状況によって子供が苦しむということが何にせよあってはならないと思います。(大学生20代)

・川口さんの言葉は特に重みがありました。子供をいじらないことの大切さをつかめました。(大学生20代)

・「多様な子供たちへの対応について」というお話して、同じ人に会ったことがない、そういう風に多様なとらえていることがいいのか、とおっしゃっていたのが本当に印象的だった。(大学生20代)

・かわさん素敵です！私も学校とか教員「たち」とかシステムとか好きじゃないです(笑)
さかまさん 中3の息子が社会福祉士になりたいといいだしました。どんな思いでなのか、よく聞いてサポートしていきたいと思います。(40代)

・「ナチュラルサポートの形成」初めて聞く言葉だった。現在の自分の活動に通底する言葉だと思いをあらたにした。(NPO法人メンバー60代)

・実践家のお2人からは、熱意というような言葉を越えた熱さを感じました。(県スクールカウンセラー60代)

・里親制度の課題、課題をどうやっていくかの提言をお聞きしてなるほどなあと思いました。

・坂間さんの、子供を支援する(言い方が悪いかもしれませんが・・・)時々、どういう関わり方をすればいいかお聞きし、勉強になった。(焼津市災害時ボランティアコーディネーター60代)

・坂間さんの里親制度の話が印象に残りました。川口さんの支援者と相談者の関係についてどう考えるかを考えてしまいました。大人が目線で考えるのではなく子供たちの目線で考えることが大切だと思いました。(30代)

・2人のお話とボランティアの3人の方の生のお話を聞けてよかったです。(50代)

・支援のかたちの部分で「てのひら」のメンバーと以前から親交がある方がいるのですが、お話をお伺いしていく中で「支援のかたちはなんかを考えなければ(組織だけでなくすべての人が)いけないのかな、と思えました。(大学生20代)

・子どもの人生が変だと否定する又は苛むのはよくないというのに共感しました。(大学生20代)

・大人が子どもに対してしてはいけないこと。いまだに答えがみつからない。きっとこれから子どもとかかわっていく中でたくさん悩んでいくんだなと思った。もっともとなやんでいきたい。(大学生20代)

・かわさんにとわれたこと・・・自分がわからないこと、迷っていることだと思った。自分ができることをしっかり考えたい。(大学生20代)

【全体を通して】

・様々な、いつもは絶対に話を聞けないような人々の話を聞きました。有意義な時間になりました。(大学生20代)

・子供が虐待をかくそうとする場合も多いというのを聞いて、そのような視点は今までなかったのなるほどな、と思いました。(大学生20代)

・シングルマザーのこのお友達はいても、支援者、父とのつながりが祖父母とのつながりのな

